

# 本興寺だより

令和四年  
六月  
第三四号

「唯仏与仏 乃能究尽 諸法実相」仏のみがものごと  
とのあらゆる真実の姿を悟っている」

(法華経方便品第二)

深みを増した緑の葉が一層勢いを増し、さわやかに  
風にそよいでいます。田植えの終わった周囲の水田か  
らは、夜にはカエルの大合唱が聞こえてきます。自然  
の中で動物も植物も懸命に生きていくことが感じら  
れます。

天地、宇宙間に存在する万物や現象には、大自  
然の調和と生命の力が働いており、仏様はその真実の姿を  
悟っているのだと云われています。

- では万象の真実の姿(諸法実相)とは何か?それは、
- ① 何事も外に現れる姿形がある(如是相)
  - ② それは内に如何なる性質を持つているか(如是性)
  - ③ 相と性を秘めたその実体は何か(如是体)
  - ④ それがどのような力を持つているのか(如是力)
  - ⑤ それがどのような働きを及ぼしていくか(如是作)
  - ⑥ それらのものごとが起こる原因は何か(如是因)
  - ⑦ 物事の関連性はどのようなものなのか(如是縁)
  - ⑧ それらの結果は行く末どうであるのか(如是果)
  - ⑨ その結果はどう波及していくのか(如是報)
  - ⑩ こうした、始めから結末に至るまでの事柄が、互い

の命あるもの、ひいては大自然の深い営みの力を得て、  
共存して生かされて生きていくことを知ることであ  
るといわれます。

人は楽しい時は積極的になり、社会と交わっている  
ことを実感し易く、逆に苦しい時は消極的になり、社  
会と距離を置き孤独になりやすいのです。

自己に対する執着を離れてみることが、つながり合  
う沢山のことに気付く大事なことだと云われます。物  
事に執着することが悪いとは限りません。

煩惱や欲望からくる人間の一切の執着を断つこと  
は生きることの否定を意味します。様々な願望や執着  
があるから人はそれを励みに生きていけるのです。

己を高めるためや社会のために尽くすことへの強い  
思いは大事なこともあります。

しかしその一方で、自己中心の心の執着の激しさ  
が多くの不幸を呼び込むとも云われます。

日蓮聖人は執着を離れるとは、自分の執着を明ら  
かに見ていくことだと云われます。

明らかにすることは、己の願いや思いを善悪に固定  
して願望が満たされれば善、挫折すれば悪との考えを  
やめることなのです。

心の執着は、最初の願望や目的を持つことは大切な  
ことでありますが、それが満たされなかった時の不満  
や後悔への、執着を継続して持つことが、より不幸を  
引き寄せるといわれます。

人は幸せを求めるために物事に執着します。だから  
「執」の字には幸せが入っています。しかし人は自分

に等しく常に関わり合っている(如是本末究竟等)と  
いうことです。

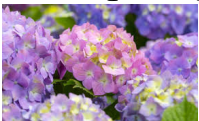
これら全ての物事の真実を悟られたのが仏様の深  
い智慧なのです。

この十の如是(如是相(によぜそう)ゝ如是本末究  
竟等(によぜほんまつくきようとう))は、自然界も  
社会の現象も、個人の行為と心の変遷にも皆関わり合  
っているということです。

私達は凡人ですから、皆自分を中心にして社会や世  
界、自然を見ることしかできていません。また目先の  
ことしか眼中に入りにくいのです。

自分の感情や利害にとらわれて視野を狭く  
して悩みを増やしていると云われます。暗い  
夜道に懐中電灯をつけても周囲しか明るく照  
らさないように、大局を見失うのです。

仏様はそれは偏った見方・考え方であり、  
少しばかりの自己の悟りや信念に偏らないよ  
う、全ての命のつながりを見通せる仏の智慧  
を身に備えるようにと云われています。



「考える」という言葉の本来の意味は「神が見える」  
の「見」が取れて「神がえる」(「考える」)となっ  
たのです。

人間は辛い時、真剣に自分の心と向き合ってどうす  
れば良いかを考える時、神仏はその側で救いの手を差  
し伸べていることに気付きなさいと云われています。  
人は単独で生きているのではない。自分の命は、他  
の多くの人々の支えはもとより、動物、植物など全て

の価値観、考えに基づく方法でしか幸せは手に入らな  
いと深く信じています。それが執の右側の「丸」とい  
う字です。人が片膝をついて自分流の幸せにしがみつ  
く姿です。自分の固執した考えを「丸」から離して己  
を見つめる時、本当の壊れない幸せをつかめるのだと  
いうことです。

余談ですが、ロシアの侵略でウクライナが大変な犠  
牲の中で戦っていますが、ウクライナは世界有数の穀  
倉地帯です。

その国旗は上半分は青色(国土をおおう澄んだ青  
空を表し、下半分は黄色(広い大地を染めて豊かに実  
った小麦を表しています)。

大自然の中で育まれる命であることを忘れ  
ないで国旗にしているのです。理不尽に破壊、  
荒廃されている国土ですが、早く国旗の風景  
のような回復を願いたいものです。



日蓮聖人は「根深ければ葉枯れず」と云わ  
れています。根が深いほど幹も枝も葉も実り  
も大きく安定して風雪にも耐え得るのです。  
大自然の命を見習い、私達もどんな試練の風や雨に  
も負けない人生を歩むために、根(性)も陰の徳を積  
んで広く深く心(地中)に根を張りなさいと云われて  
います。

人間に本当に大切なのは外見ではなく、草木と同じ  
く目に見えない心の根(根性)なのだ、それがあつ  
て始めて、人も立派な花を咲かせられのだと教えてい  
ます。合掌